

第1回基本構想検討委員会において委員から出された主な意見等

- 化石エネルギーの消費を節約し、植物や森林を大切にして循環型資源で人間社会を支えていく方向にきており、そのシンボルとして植樹祭を位置づけ、石川から新しいパラダイムを発信できたらよいのではないか。
- 森林を守り育てて利用していくことの重要性を、植樹祭の開催を機会に広く県民の方に知らせていくことが必要であり、木を育てるのと同様、人を育てるという意味では、学校教育の中にそういった観点を取り入れていかなければいけないのではないか。
- 新しい時代を作り上げていくという観点からいうと、全国植樹祭の企画内容を検討するにあたって、子孫、若い人が本当に真剣に考えていくという発想も大事。
- 森林が極相になれば二酸化炭素を吸収しなくなるので、伐採して木材を利用し、林業を活性化することは、温室効果ガス削減の観点からもありがたいことだと思う。ただ、林業のことだけ言うと、県民全体としては他人事のようになってしまうので、森林が人々の生活に直結した様々な役割を理解して頂くことから議論することが重要。
- 新幹線の開業は県外からの植樹祭参加への誘因に相当良い方向に影響が出ると期待しており、参加規模の想定を1万人として準備を進めていくのが妥当ではないか。
- 環境や治水等、時代の変化を踏まえて新しいコンセプトで実施する必要があると思うが、そうした新しいコンセプトを実践する石川県内の人々が1万人の参加者のコアとなるべきではないか。
- 開催地については、過去の石川の三大行幸啓において金沢より南に来たことがないということや、今までの例を見ても2巡目開催県は全て1巡目とは別の場所で開催していることも大きなポイントであり、加賀地域を前提として検討を進めていくのがよいのではないか。
- 観光誘客の観点からは、単なる1日開催で終わらせるのではなく、長期的なPR効果のあるイベントがあれば良い。